

女性委員会通信

214
2014.12.24

東京都港区新橋六 七 一 川口ビル六階
全国労働組合連絡協議会 女性委員会
TEL 〇三 五四〇三 一六五〇
FAX 〇三 五四〇三 一六五三

第24回全労協女性委員会総会開催 すべての女性が生きいきと働ける 職場・社会にしたいね

11月28日(金)浜松町の神明プラザで総会を開催した。まず昨年200号を迎えた女性委通信の歩みをピックアップした映像を見ながら24年の歩みを振り返った。女性たちの闘いの課題は残念ながら変わっていない。

均等法が全ステージにおける差別禁止となった時、多くの反対にも関わらず女性に対する時間外規制がなくなった。そのツケが今日本に長時間労働と女性労働の安い賃金という形で広まったのが見えた。

ついで「すべての女性が輝くって本気で考えてる？」と題して全国一般東京南部の書記長・中島由美子さんからお話。中島さんは廃案となった「女性活躍推進法案」の概要を紹介しながら、大半の女性は中小企業で働いており、私たちはずっと輝いている、なぜ昔から働く女性を大事にしてこなかったのか。

均等法・派遣法の成立で女性の非正規化が拡大したが、男性の派遣拡大と派遣切りでやっと労働組合の課題となった。労働組合の男性たちは「202030」(2020年までに意思決定の場に女性を30%にするという2030年小泉政

権下で決めた方針)を知らない人もいる。労働組合の本気度も問われるし、女性の組織化に取組むべし、当事者が考えてこそやり繰りしても参加したいという催しになるなど日頃の活動からの問題提起もしてくれた。

総会の議案提起が駆け足で行われ、意見交換の場は軽食を取りながら参加者の自己紹介や今の課題などを紹介した。東水労の直江さんは管理会社への業務委託問題など秋闘の闘いを、静岡から参加の岡本さん宮田さんほどもに書記長として活動中、なんでも書記長に負担がかかってくる状況は問題とも。大阪からの高田さんは「橋下は大阪をおもちゃにしている」と、福島は佐藤さんは高汚染のゴミを焼却炉で一般ゴミをあわせて燃やす焼却炉建設が行われているが、4〜5年しか使わないのに数百億もつぎ込んでいる、福島に注目してほしいと切実な声を。もっと時間があつたらと思いつつ総会は無事終了しました。



闘う女性たち大集合！part2と題しての総会

戦後最低の投票率で終わった総選挙

沖縄選挙区は辺野古移設拒否で4名全員当選、本土側がどう応えていくか、ますます問われる。国会での政党の勢力分野が殆ど変わらなかった今回の総選挙結果であるが、来年通常国会で安保法制に係わる法案をだしてくるだろう。憲法を無視するような、集団的自衛権の行使を閣議決定した、安倍政権に持続的にNO!の声を挙げていこう。

天皇を国家元首に、男女共同参画社会の中止などを謳っている、極右政党「次世代の党」は2議席のみで大きく後退したが、安倍政権はこうした勢力と結びついている。安倍政権はマスコミ操作も凄まじい。ますます、警戒心を持って、安倍の嘘を見抜き、対抗勢力を作り上げよう。(近藤)

STOP「秘密保護法」12.6 集会 日比谷野外音楽堂に1600人が結集

民意を無視して「秘密保護法」が強行可決されて1年、12月10日の施行を前に、全国から約1600人が集まり、廃止への思いをアピールした。学習院大大学院の青井未帆教授は法の問題点が指摘された。参加した各団体からの発言を受けたが、SASPL(自由と民主主義のために学生緊急行動)の若者のシニアや労働者への刺激的な発言や楽しいコール指導があった。その後、法の危険性や廃止への取り組みを銀座デモで訴えた。



急行動)の若者のシニアや労働者への刺激的な発言や楽しいコール指導があった。その後、法の危険性や廃止への取り組みを銀座デモで訴えた。

JAL Remember Action

12・9あの日から4年
JAL本社前へのほり旗が林立
当該の怒りほぼしる力強いアピール
京急新馬場駅近くの聖跡公園から天王洲のJAL本社まで色とりどりのほり旗を掲げ、デモの隊列が続いたのは圧巻だった。JAL本社前では、更に駆けつけた支援の仲間が膨れ上がり、通りを挟んで二重になって不当解雇撤回をぶつけた。解雇通告当時を思い出している当該の収まりきらない強い怒り、社員が次々と辞めて行くJALへの危惧、にじみ出るフライトへの思い、感動的な抗議集会だった。(竹)



12・9JAL Remember Actionに約800名が結集

15けんり春闘 発足総会& 学習集会

総選挙の前日13日の午後、けんり春闘発足・学習集会が水道橋韓国YMCA国際ホールで開催された。

発足集会は全港湾松本委員長が膨大な借金の日本はEUのように緊縮財政となり公務員攻撃が拡大するだろう、情勢に対しては機敏に、仲間にはおおらかに官民共闘で闘っていきと挨拶。

全労協・中岡事務局長が情勢、闘いの方針、体制・財政について提起し全会一致で承認された。

ついで労働弁護団常任幹事の栗井護士から「暴走するアベノミクス！安倍政権の『雇用破壊』との闘い」と題する講演を聞く。栗さんは「これまでなんとか阻止してきた労働法制改悪だが、今の雇用破壊は戦後日本の労働者保護ルールを根底から破壊し、暗黒の雇用社会がやってくる」と警告、組織の違いを超えての反撃を」と呼びかけた。

第24回 全労協女性委員会 総会に参加して

社会の仕組みを変える大きな力

総会では大変お世話になりました。

「原発いらない福島のおんなたち」のリーダー購入にも協力して頂き有難うございました。

福島では、人権も、民主主義もないことを、いやでも実感させられ、無力感で落ち込むこともたびたびです。立場は違っても、権利を主張し、闘い続けている皆様からの報告に勇気付けられました。

今回の総会では、東京南部、中島書記長の情熱あふれる講演、そして、全労協女性委員会の闘いの歴史に触れ、権力にも、権威にも組み伏さない女性達の闘いが、社会の仕組みを変える大きな力となることを強く実感しました。再稼働、格差、貧困・・・深い溜息ばかりが出てきます。でも、女性が行動すればきつと変えられる。このことを信じようと思いました。(ふくしま連帯労組・佐藤昌子)

自分の活動の芯になる

この8月から、地域のユニオンで『書記長』の肩書ももらい、活動の全体に関

臨時国会では廃案となった派遣法改悪案だが、もともと派遣労働者は今の法制ではどんな違法派遣でも裁判では勝てない。派遣会社は法改悪を見越して企業に、派遣会社が正社員で雇って派遣しますとセールスをしているという。さらに労働時間ではなく成果による時間管理は労基法の保護を受けない労働



女性委員会は女性活躍推進について報告をした

わる羽目になった。労働を始めとして、生活に関わる一切の相談が大波小波で絶え間なく襲ってくる中、経験も知識も足らず、相談者にどう対峙し組織運営はどうしていくかと、あれこれと悩んでいた。そんなときに参加を呼びかけていただいた第24回女性委員会総会だった。会では、目の前に座った方がまさに私の悩むところを語り始められ、ああ、自分の所だけの特異な話ではない、普遍的な問題だったのだと目が開いた。『女性たちの経験を交流し、明日へとつなげて行く場』という会の意義を、痛切に感じた。

参加していた方たちそれぞれに聞かせていただいた経験や思いは、明日からの自分の活動の芯になると確信させてもらった2時間だった。

(遠州労働者連帯ユニオン 書記長 岡本真弓)

学習の大切さを学ぶ

女性の職種や環境が多様化してきた時代、女性の意識は向上しているものの男性の意識は、今でも女性は家を守り、子供を育てる事が当たり前の考えになっているのではないだろうか？

また、男女雇用機会均等法が制定され

者をつくり出し、長時間労働・過労死は蔓延する。極めつけは解雇の金銭解消制度だ。

2016年上程に向けて準備されている、これが通れば企業は解雇したい人物を裁判で負けても金で解雇できることになる。労組役員は真っ先に狙われるし、労働組合の存亡の危機だ。安倍政権の暴走を止めるにはゼネストしかない。ハツパがかけられた。本当に待たないの情勢だ。

戦争をさせない千人委員会の藤本さんは来年5月3日にすべてのグループとつながった大集会を開催し反撃を、原子力資料情報室の澤井さんは福島では何も終わっていない、東京が高汚染を免れたのはたまたまでありこんな状況で再稼働などあり得ないと特別報告。

ついで春闘への取組と決意表明が7組合からあり、女性委員会は女性活躍推進について報告、JAL原告団が争議団を代表して決意を述べた。

締めは金澤(全労協議長)共同代表がどんな選挙結果でも私たちの方針は変わらないと力強く発言し団結ガンバローで終了した。

だが、企業はそれを逆手に取り、長時間労働を迫るなどの現状、そしてパート労働法が成立したが、雇用の不安定で低賃金は



今でも続いている事など、いまだ女性の差別やワーキングプアが無くなっていない事を聞き、私が働いていた時と何ら変わっていないのだと思いました。

女性パートの思い込みを一人ひとりの意識を変えることが大事ではないでしょうか？私も臨時雇用・パートなどの経験をしてきたのですが、低賃金・差別があってもあまり考えなかったように思います。というより、言っても無駄と諦めていたように思いますが、学習により今の雇用の在り方が昔も今も変わらず異常であることや女性の尊厳をないがしろにしている現状を学びました。

戦後女性が選挙権と政治参加して69年、男女平等の原則に戻り学習していかなければと強く思う数時間でした(学習の大切さを学びました)。

女性委員会の皆さん、共に「女性の権利」や「労働条件」の向上に向けて、これからも共に頑張っていきましょう。

(国労全国家族会 小原鏡子)